

研究報告書第40号

K 1 - 0 1

中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

1 9 8 6 ・ 3

山 形 県 教 育 セ ン タ ー

研究報告書第40号(昭和61年3月刊)

中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

山形県教育センター

目 次

第1章 調査研究の目的と方法

第1節 調査研究の目的

第2節 調査の内容と方法

第2章 中学生の地域における活動に関する公民館の考え — 調査結果の分析と考察 —

第1節 対象公民館のプロフィール

第2節 中学生の地域活動に対する公民館の姿勢

第3節 中学生にかかわる公民館活動

第4節 公民館と中学校とのかかわり

第3章 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

— 調査結果のまとめと今後の課題 —

第1節 調査結果のまとめ

第2節 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

調 査 研 究 の 概 要

1. 調査研究のねらい

心身の発達上きわめて重要な時期にある中学生の人間形成には、学校教育だけでなく、地域社会や家庭などの学校外の教育機能の果たす役割が重視されている。今日、中学生の地域社会での生活体験が少なくなり、地域社会での活動の活性化の必要性が指摘されている。そこで、地域社会の中で教育活動を展開している公民館に視点をあて、中学生の地域活動を活性化するために公民館がどのような役割をもつのかを明らかにする。

2. 調査の対象と方法

(1) 調査の対象

県内各市町村に設置されている中央公民館及び地区公民館 245 館

(2) 調査の方法

調査票を市町村教育委員会を通じ対象館に配付し、記入済みの調査票を返送してもらう方法

(3) 調査項目

中学生の地域活動に対する公民館の姿勢、中学生の地域活動にかかわる公民館活動、中学生の地域活動にかかわる公民館と学校の結びつき

3. 調査研究のまとめ

調査結果をみると、ほとんどの公民館では、中学生が地域で活動することは人間形成上役立つものであり、今後その活動の場や機会を拡充していかなければならないと考えている。しかしながら、具体的な拡充の手だてを検討していない公民館もかなりみられた。中学生の地域活動について地域の人々や地区内の中学校及び中学生の関心が十分に高まっていないとする公民館が多い。中学生が参加できる事業は、全体の4分の3の公民館で実施していた。しかし、参加状況は決していいとはいえない。ただし、中学校との結びつきのある公民館ではかなり参加していた。クロス分析をも含めた結果をもとにして、中学生の地域活動を活性化するために公民館に期待される役割を整理してみると、

第1に、公民館は中学生が地域で活動できうような環境醸成に努力する必要があること。そのために、具体的な方策を早急に検討していかなければならない。

第2に、公民館の機能を地域の人々に対する学習活動の場や機会を提供するものとしておさえるだけでなく、広報活動や社会教育関係団体に対する育成援助活動をも強化していく必要があること、

第3に、中学校との交流を活発にし共通理解を図る活動を推進し、中学生の地域活動を活性化するための共通の手だてを計画する必要があること。

第4に、中学生が参加できる事業を豊富に準備する必要があること。事業の企画運営にあたっては、広く関係者の意見を取り入れ、事業参加を通して、中学生が地域で自主的な活動を実践できるように配慮していくこと。校外の生徒組織についての関連も検討すること。

4. 今後の課題

中学生の地域活動を活性化するための学校教育と社会教育との連携のあり方をさぐるとともに、特色ある実践事例を実証的に研究する必要がある。また、中学生の地域活動は、彼らが成長する過程で地域とどのようなかわりがあったかも重要であると思われるので、この視点からの研究も必要である。

は し が き

子どもたちが、知・徳・体の調和のとれた人間に成長していくためには、彼らの生活の場である家庭・学校・地域社会がそれぞれの教育機能を発揮し、豊かな生活体験をもたせることが必要である。しかし、近年社会の変化にともなう生活環境の変化により、子どもたちにとってそれぞれの時期の発達課題を達成するために必要な生活体験が不足してきていることが各種の答申等でも指摘されている。

子どもたちに多くの生活体験をもたせるためには、それなりの場と機会が準備されていなければならない。家庭や地域社会は子どもたちにとって生活体験の場であり、重要な教育環境であるとみるとき、家庭や地域社会等学校以外の教育機能の充実を図ることが、子どもたちの健全育成のために大切なことである。

学校以外の場で、子どもたちの生活体験の場を意図的・組織的に準備していくことができるのは社会教育、とりわけ公民館であり、子どもたちの健全育成にはたす公民館の役割は大きいと考えられる。

そこで、当教育センターでは、子どもたちにかかわる公民館活動の実態を把握するとともに、子どもたちの地域における活動を活性化するための指針を得るために、地域での活動がすくないといわれている中学生に視点をあて、県内の全公民館を対象として「中学生の地域における活動に関する公民館の考え」を調査した。

本書は、調査によって得た資料をもとに、中学生の地域における活動の活性化をはかるための公民館の役割を明らかにしようとしたものである。いろいろな角度からご検討いただくとともに、これからの教育活動の基礎資料としてご活用いただければ幸いである。

最後に、この調査を実施するにあたり、ご協力いただいた方々に心から感謝の意を表したい。

昭和61年3月

山形県教育センター所長事務取扱

鈴木 栄 三

中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

目 次

第1章 調査研究の目的と方法	1
第1節 調査研究の目的	1
1 調査研究のねらい	1
2 調査研究の趣旨	1
第2節 調査の内容と方法	2
1 調査項目の選定と調査票の作成	2
2 調査の対象と方法	2
第2章 中学生の地域における活動に関する公民館の考え	4
— 調査結果の分析と考察 —	
第1節 対象公民館のプロフィール	4
第2節 中学生の地域活動に対する公民館の姿勢	4
1 中学生の人間形成と地域活動	4
2 地域活動に対する地域の人々、中学生、中学校の関心	5
第3節 中学生にかかわる公民館活動	6
1 中学生が参加できる公民館事業の実態	6
2 公民館事業への中学生の参加を促すために	9
第4節 公民館と中学校とのかかわり	11
1 公民館と中学校の結びつき	11
2 公民館事業と中学校との関係	12
3 公民館と中学校の相互理解の必要性	14
第3章 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割	16
— 調査結果のまとめと今後の課題 —	
第1節 調査結果のまとめ	16
第2節 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割	20

第1章 調査研究の目的と方法

第1節 調査研究の目的

1 調査研究のねらい

中学生の地域活動を活性化するために公民館がいかなる役割を有するのかを、中学生の地域活動に対する公民館の考えと公民館活動の実態を通じて明らかにしていく。

2 調査研究の趣旨

近年、中学生は、自然との接触や年齢の異なる仲間とのふれあい、地域の文化や世代のちがう人々とのふれあいが不足しており、責任感や思いやり、自発的行動力などが欠けていることが各種の調査等によって明らかにされている。また、いじめや問題行動も増加傾向にあり、社会的な課題となっている。言葉をかえていえば、今日の中学生は成長発達上何らかの問題をかかえながら生活しているともいえる。

青少年の望ましい人間形成を図るためには、乳児から幼児、少年、青年へと成長する各々の時期に心身とも豊かに発達していくことが重要である。それぞれの時期の発達課題に着目し、その課題達成を図る教育のあり方を究明し、課題達成に必要な条件をいかに整備し、活動が充分にできるように保障していく努力こそが教育に携わる関係者の重大な責務と思われる。

いうまでもなく、青少年の人間形成は、青少年の日常生活が営まれている家庭、学校、地域社会のあらゆる場において意図的・無意図的に行われるものであり、そのうちの一つの場だけで形成されるとはいいがたい。しかし、これまでは、とすれば、児童生徒に対する教育は学校教育のみに依存し、学校に対して過大な期待がかけられてきた傾向にあった。このような風潮に対して、中央教育審議会は昭和46年の答申（「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」）の中で、「児童生徒に対する教育は、学校教育のみに依存しがちなこれまでの教育観を改め、総合的な教育体系を構想し、各教育領域の機能充実と相互の連携協力が必要である」と述べている。同様の考えが各種審議会の答申や意見具申等でも取り上げられてきている。

このような背景の中で、本調査研究の視点として、青少年の健全育成を図るには、彼らの生活体験の場を家庭や学校の中にだけとじこめず、地域社会にまで拡充し、地域社会の中で展開される活動をより活性化していくことが重要な課題であると設定し、青少年の中でも特に心身の成長の著しい時期にある中学生に焦点をあてて研究に取り組むことにした。

「中学生の地域活動」に関しては、これまで中学校の理解と取り組みについてその実態把握に努めてきた。昭和58年度調査（「生徒の地域活動に関する中学校教師の意識」）によれば、教師は自らの考えている教育課題と生徒が地域で活動することの教育的価値とは密接な関連があると考えており、生徒を地域活動に積極的に参加させたいという姿勢をもっていた。そして、生徒の地域活動を活性化していくためには、学校教育活動での取り組みだけでなく、社会教育関係者と連携協力していくことが必要であると考えている教師が多かった。また、昭和59年度調査（「中学生の地域における活動に関する学校の考え」）によると、中学校において、教職員が生徒の地域活動について共通理解を図り、学校の教育活動との関連を検討して活動できる条件を整備していく必要が要請されている。そして、地域の

研究担当者

指導主事	小田島健男
"	杉沼徹
"	黒川辰治
"	菊地清

教育の中核的な機能をもつ学校が、地域社会の中で相互に連携協力しあえる体制づくりに主体的な役割を担っていくことが期待される。総括的にいって、学校は地域社会そのものを教育の場としてとらえ、地域社会のもつ教育力を高めながら、生徒の望ましい成長発達を促す方向に整備していく努力が期待されているといえる。

地域社会は、家庭や学校とともに、中学生の成長にとってもっとも基本的な生活の場である。地域社会という生活の場でいろいろな活動を展開し、その中で多くの達成感や成功感を味わい、それが生きることへの自信となって彼らの生活全体に活気を与えることを期待する。そのような意味からいっても、地域社会は中学生の主体的な自己実現の場としてきわめて大切な役割を果たすものであると考えられる。そこで、本年度は、実際に活動が展開される地域社会に目をむけて、地域社会の中で教育活動を推進している社会教育の角度から研究をすすめていくことにする。社会教育の中でも、日常生活圏に設置されている公民館に焦点をあてて、中学生の地域活動に関する公民館の考えを調査し、その結果を分析・考察することにより、中学生の地域活動を活性化するために公民館がどのような役割をもつのかを明らかにする。

第2節 調査の内容と方法

1 調査項目の選定と調査票の作成

中学生の地域活動に関する公民館の考えを次のような観点から明らかにしていく。

- (1) 中学生が地域で活動することについて、公民館では基本的にどのように考えているのか
 - ア 中学生の人間形成と地域活動とのかかわりについて
 - イ 地域活動について、中学生自身や中学校及び地域の人々の関心の度合について
 - ウ 中学生の地域活動を拡充することについての意識と今後の具体的方策について
- (2) 中学生の地域活動にかかわる公民館活動としてどのような取り組みを実施しているのか
 - ア 中学生が参加できる公民館事業の実態について
(事業の内容・形態・時期・中学生の参加状況等や事業を実施できない理由など)
 - イ 中学生の地域活動を促進するための啓発活動について
(広報活動、地域少年団体への指導援助など)
- (3) 中学生の地域活動にかかわって公民館が学校とどのような結びつきを持っているのか
 - ア 学校との定期的な会議や施設相互利用、情報の交流などについて
 - イ 公民館事業の実施と学校とのかかわりについて

上記の観点をもとにして調査項目を選定し、調査票を作成した。なお、調査票の回答形式は選択回答形式をとり、その中でも単一選択法を採用した。

2 調査の対象と方法

(1) 調査の対象

調査の対象を44市町村に設置されている公民館(中央公民館及び地区公民館)の全部とした。

(2) 調査の方法

調査票を対象公民館に郵送し、記入済みの調査票を返送してもらう方法をとった。

(3) 調査の期間

昭和60年11月11日～11月28日

(4) 調査票の回収状況

配布調査票	245票
回収調査票	225票
回収率	91.8%

第2章 中学生の地域における活動に関する公民館の考え

— 調査結果の分析と考察 —

第1節 調査対象公民館のプロフィール

調査対象は前述のように、44市町村に設置されている公民館（中央公民館・地区公民館）である。回収された調査票から公民館のプロフィールを簡単に述べておきたい。

- (1) 中央及び地区別でみると、中央公民館が20.5%（46館）、地区公民館が79.5%（179館）であり、地区公民館が全体の5分の4を占めている。中央公民館46館のうち、他に地区公民館がなく中央公民館のみが設置されているというものが17館である。
- (2) 職員数についてみると、常勤職員が1人の館が28.0%、2人が28.0%、3人が24.0%、4人以上が12.4%であり、常勤職員がいない公民館が7.6%（17館）である。一方、非常勤職員については、82.7%（186館）に配置されている。
- (3) 年間総事業費別では、半数以上の公民館（52.4%、118館）が100万円以上の事業費をもち、一方、20万円未満のところも4.9%（11館）あり、事業費についての差がみられる。
- (4) 現在重点的に取り組んでいる事業別では、青少年教育を重点とする公民館が28.0%で一番多く、ついで、成人教育21.8%、世代交流が17.3%、家庭教育が13.8%、婦人教育が10.2%、高齢者教育が8.4%の順である。

第2節 中学生の地域活動に対する公民館の姿勢

1 中学生の人間形成と地域活動

中学生が学校外のいろいろな場で活動し、より多くの生活体験を重ねることが彼らの望ましい成長のためにぜひ必要なことである。

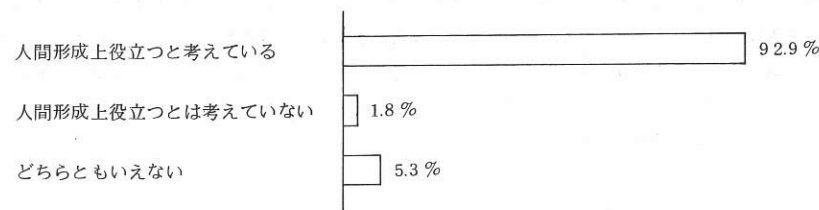
現在の社会の中で、中学生に対して地域における活動の場を意図的・継続的に準備していけるのは公民館であろう。公民館が中学生の地域における活動に対してどのような考え方をもち、どのような実践をしているかは、中学生の地域における活動の活性化のための課題であると思われる。

そこで、中学生の地域における活動にかかわる公民館の考え方について考察してみる。

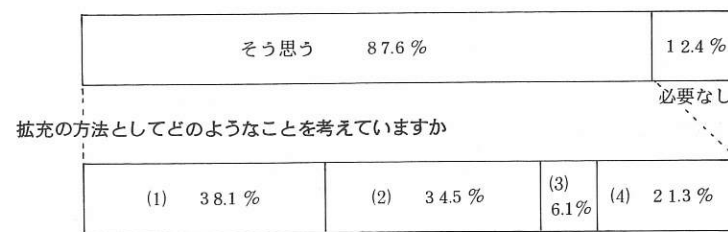
中学生が地域で活動することは、彼らの人間形成上役立つと考えている公民館は90%をこえている。そして、今後活動の場や機会を拡充しなければならないと考えている公民館は90%弱であり、ほとんどの公民館は中学生の地域における活動は中学生にとって意義があると考えており、今後活動の場や機会を拡充していきたいという姿勢をもっていると考えられる。拡充の具体的方法としては、公民館の事業にとりいれるよりも、地域の人々や青少年団体に働きかけたり学校教育関係者と連携して、活動の場を拡充していきたいと考えている。

この考え方からすれば、地域の人々や青少年団体、学校等に対して、公民館がどのように働きかけていくかが中学生の地域における活動の活性化のための課題の一つであると考えられる。

中学生の地域での活動に対する公民館の考え



子どもたちの地域での活動の場や機会を拡充しなければならないと思うか



- (1) 地域の人々や青少年団体に働きかけ、子どもたちが地域で活動する場や機会を拡充する
- (2) 学校教育関係者と連携して、子どもたちが地域で活動する場や機会を設ける
- (3) 子どもたちが地域で活動する事業を積極的に取り入れていく
- (4) 今のところ具体的に検討していない

2 中学生の地域活動に対する地域の人々、中学生、中学校の関心

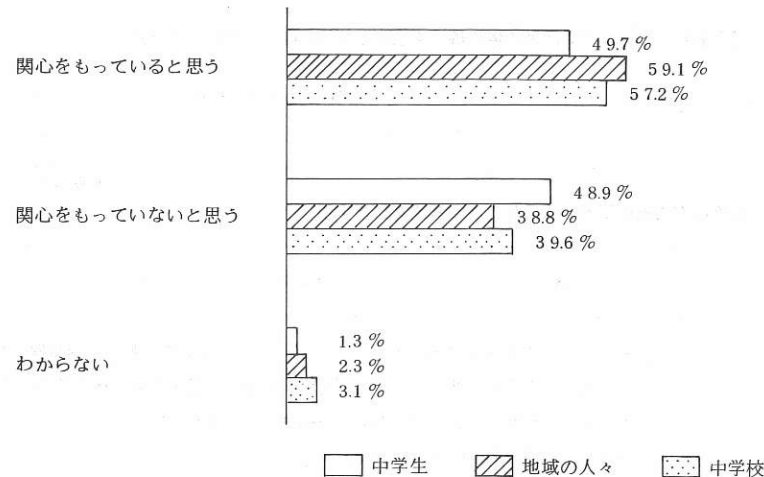
公民館の活動は、一般的に、地域の人々の実態をとらえた上で企画され実施されていかなければ効果をあげることは期待できないといわれている。公民館が中学生にかかわる活動を実践しようとする時も例外ではないと思う。そのような意味から、中学生の地域活動に関係する人々の考え方を公民館がどのようにとらえているかが問題であると思うので、そのことについて考察してみる。

まず、活動の主体者である中学生の考え方については、地域の行事や公民館活動に参加することについて関心をもっていると思っている公民館は50%弱である。地区の中学校や地域の人々については、関心をもっていると思っている公民館は約60%である。

県内のほとんどの公民館では地域における活動が中学生の人間形成に役立つと考えているが、地域の人々や中学校は、これらの活動についてそれほど高い関心はもっていないと公民館では判断している。したがって、地域の人々や中学校に対しての公民館からの啓発活動が必要であると思われる。しかし、中学生が地域で活動することが重要であることを公民館報等を通して地域の人々に知らせたことのある

公民館は約 30 % にすぎない。また、公民館の事業の中で啓発活動を実施しているところは半数に満たない。このことからして、これまで以上の啓発活動を行うことによって、中学生を地域で活動させるための雰囲気づくりに力を入れる必要があろう。また、前年までの調査で、ほとんどの中学校は、中学生が地域で活動することは人格形成上大切であると考えているといえる。このような中学校の考え方が公民館に正しく伝えられていないようである。したがって、公民館と中学校との交流を活発にし、共通理解をはかることも必要なことであると思われる。

公民館からみた中学生の地域での活動に対する関心



第3節 中学生にかかわる公民館活動

1 中学生が参加できる公民館事業の実態

中学生が学校以外の場で活動しようとした時、活動の場や機会が豊富に準備されていることが必要である。その役割をはたすことのできる公的機関の一つが公民館である。そこで、公民館が中学生に活動の場をどれだけ提供するかが中学生の地域における活動の活性化を左右する一つの要件になろう。公民館で中学生を活動させる方法はいろいろあろうが、ここでは公民館の事業にかぎって実態をさぐってみる。

昭和 58 年度以降の公民館事業の中で、中学生が参加できるものがあつた公民館は約 4 分の 3 であつた。中学生の地域における活動の場の確保という点からみて、過去 3 年間にわたって、中学生が参加できる事業がなかつた公民館が約 4 分の 1 もあるのは問題であらう。さらに、それらの事業をもてなかつた理由をみると、事業をおこすのは無理だと考えていたとか、他世代にかかわる事業を優先してきたと

する公民館が多く、中学生に対する公民館の消極的姿勢を示しているように思われる。

中学生が参加できる事業を実施した公民館についてみると、実施した事業のほとんどが集会・行事形態であり、いわば単発的なものであつて一定期間継続して活動の場を与え得ると考えられる学級・講座形態の事業はわずかである。このことについて、地区公民館を設置している市町村の中央公民館についてみると 20 % が学級・講座形態の事業を実施している。

事業の内容や時期についてみると、内容ではスポーツ活動を主としたものが 60 % をこえており、他の内容の活動はごくすくない。前年度の調査の中で、中学校が生徒の地域における活動の内容として期待するのは奉仕活動を主としたものが最も多く、中学校の期待する内容と公民館で実施している事業の内容とにちがいがみられ、このあたりにも課題があるように思う。地区公民館を設置している市町村の中央公民館では、スポーツ活動を主とした事業が 40 % であり、伝統文化の継承や中学生をリーダーとして活動させることを主とした事業等が他の公民館に比して多い。実施時期については、土曜日の午後や日曜日が最も多く、ついで長期休業中であり普通日に実施しているところはほとんどない。

事業の運営についてみると、事業を実施した公民館のうち約 65 % の公民館では企画や運営のための組織をつくっている。この組織を公民館職員と地域の人々で構成したところが 45 % 弱あり、公民館職員と地域の人々に学校教育関係者を加えたところが同じくらいあつた。中学生が事業の企画や運営に参加したとすると約 30 % あつた。

中学生の学校外での活動の活性化のために、中学生の実態にあつた事業を数多く実施することによって、活動の場や機会を豊富にしていくことが公民館に期待されることである。

公民館にとっては、地域の住民に対しての活動の場や機会の提供とともに、それらの活動の必要性を喚起し、住民の関心を高めて各種の活動の活性化をはかっていくことも重要な仕事である。このような意味から広報活動は公民館活動の活性化のための大きな力となるものである。中学生にかかわる公民館活動の活性化のためにも、地域の人々等の関心を高めるために広報活動を活発にしていくことが求められる。公民館の広報活動の方法はいろいろ考えられるが、広報紙の発行については公民館によって発行している回数のちがいはあるが 80 % をこえる公民館では、広報紙を発行し、そのうち 85 % 強が各家庭に配布している。しかし、広報紙に中学生の地域での活動の重要性に関する記事をのせているところはあまり多くない。

また、中学生の地域での活動に深いかかわりを持ち、これらの活動の活性化のために大きな力となる子ども会育成会と公民館との関係についてみると、その活動をいろいろと援助している公民館は 70 % をこえており、役員を対象とした研修を実施しているところは半数に満たない。地区公民館を設置している市町村の中央公民館では約 60 % が役員の研修を実施している。子ども会育成会等の社会教育関係団体に対する公民館の援助を拡充していくことも、中学生の地域における活動の活性化のために必要であると思われる。

昭和58年度以降公民館の事業のなかに中学生が参加できる事業がありましたか

あった	76.9%	なかった	23.1%
-----	-------	------	-------

事業は主にどのような形態でしたか

(1)	91.9%	(2)	8.1%
-----	-------	-----	------

(1) 集会・行事形態 (2) 学級・講座形態

事業は主にどのような時に実施しましたか

(1)	70.5%	(2)	26.0%	(3)	3.5%
(1) 土曜日の午後や日曜日 (2) 長期休業中 (3) 普通日					

事業への中学生の参加状況はどうでしたか

(1)	42.8%	(2)	48.5%	(3)	8.7%
-----	-------	-----	-------	-----	------

(1) かなり参加していた (2) あまり参加していなかった
(3) ほとんど参加していなかった

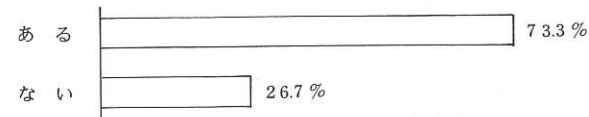
中学生の参加のすくない理由

(1)	41.4%	(2)	30.3%	(3)	13.1%	(4)	8.1%	(5)	7.1%
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	------

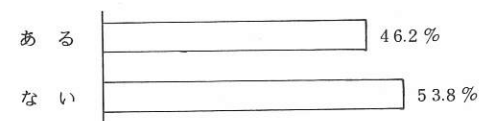
(1) 中学生が関心をもっていない
(2) 中学生は参加する時間がない
(3) 時期が適当でなかった
(4) 内容が中学生の実態にあわない
(5) わからない

公民館と子ども育成会とのかわり

公民館で資料を提供したり相談に応じたりしたこと



役員を対象とした研修を実施したこと



2 公民館事業への中学生の参加を促すために

過去3年の間に、公民館の4分の3以上は中学生が参加できる事業を実施していたが、それらの事業に中学生がどれだけ参加していたかが問題である。

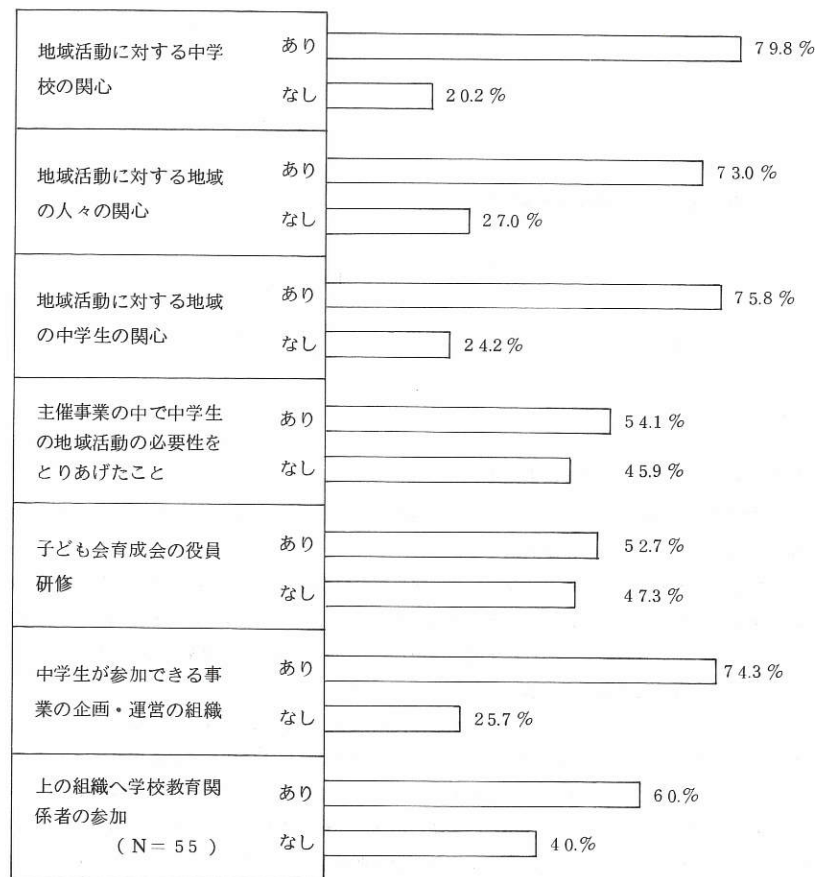
このことについて事業を実施した公民館の中で中学生がかなり参加していたのは約40%にすぎない。そこで、中学生をできるだけ多く参加させるための手だてとしてどのようなことが考えられるかを、事業を実施して中学生がかなり参加していたとする公民館とその他の公民館とを調査結果に示された範囲の中で比較することによって考察してみる。

公民館事業に中学生がかなり参加していたとする公民館のほとんどは、地域での活動が中学生の人間形成に役立つとの考えをもっている。さらにこれらの公民館では、地区に住んでいる中学生は地域での活動に対して関心をもっていると判断しているところが多く、地区の人々や地区の中学校も関心をもっていると判断しているところが多い。公民館の事業に中学生がかなり参加していたとする公民館は、中学生の地域活動が大切であることを家庭教育学級などの事業の中でとりあげているところが多く、子ども会育成会の運営についても積極的に援助し、指導者の養成にも力を入れているところが多い。また、中学校との結びつきも強く、中学生にかかわる事業を実施するにあたって、企画や運営のための組織を作り、学校教育関係者を含めているところが多い。

以上のようなことから、公民館が主催する事業に中学生をより多く参加させるためには、関係者の関心を高め、子ども会育成会の活動への援助を拡充することが大切である。また、事業の実施にあたっては、企画や運営のための組織を作り、その中に学校教育関係者を含めていくことが大切なことである。

主催事業に中学生が「かなり参加している」公民館の現状

(N = 74)



＝ グラフのみかた ＝

中学生にかかわる公民館の主催事業に中学生が「かなり参加している」とする公民館は74館であった。その中で、地域に住んでいる中学生がこれらの活動に関心をもっていると判断している公民館は79.8%であり、関心をもっていないと判断している公民館は20.2%であった。以下の項目についても同じ。

第4節 公民館と中学校とのかかわり

1 公民館と中学校の結びつき

前年度の調査によれば、ほとんど全ての中学校では中学生の地域における活動は中学生の人間形成上重要な意義を持つと考えており、70%の中学校が中学生の地域活動を活性化するためには社会教育関係者と連携していく必要があると考えていた。

今年度の調査においても、ほとんどの公民館では中学生の地域活動は中学生の人間形成上役立つと考えており、中学生の地域活動の拡充の手だてとして、地域の人々や青少年団体に働きかけるとともに、学校教育関係者と連携していくことが大切であると考えている。

このように、中学生の地域活動の持つ意義についての認識は公民館、中学校とも同様であり、さらに、中学生の地域活動の活性化を図るためには相互理解・相互協力が必要であるとする考えにおいても公民館、中学校とも同様であるということが分かる。

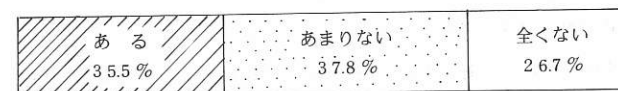
そこで、中学生の地域活動の推進にかかわって公民館と中学校がどのような結びつきになっているのかを、相互の話し合い、情報交流、施設利用という3つの観点から探してみる。

相互理解・相互協力を図る上で大切な役割を持つ話し合いについてみると、中学校と定期的に話し合いの機会を設けている公民館は17%しかなかった。また、定期的な話し合いとは別に、中学校の教員が公民館に立ち寄って話をしていくことがあるという公民館は36%あり、立ち寄ることが全くないという公民館は27%あった。

公民館と中学校が定期的に話し合いをする機会を設けていますか



地区の中学校の教員が公民館に立ち寄って話をしていくこと



情報交流という結びつきについてみると、中学校から学校行事等の情報が届けられているという公民館は51%あり、中学校に公民館事業等の情報を届けている公民館は59%あった。中には、中学生が参加できる公民館事業等について、事業実施要項を中学校に届けて具体的な内容説明等をしている公民館が36%あった。一方、前年度の調査によれば、事業の企画・運営面について事前に公民館と話し合いを持っている中学校が22%あり、相互に積極的に連携を図ろうとしているところが見られる。

施設利用についてみると、公民館事業の中で中学校の体育施設（体育館・グラウンド等）を利用している公民館は50%、教室等の施設利用をしているのは16%であった。一方、中学校の教育活動の中で公民館施設が利用されているのが50%、全く利用されていないという公民館は29%あった。

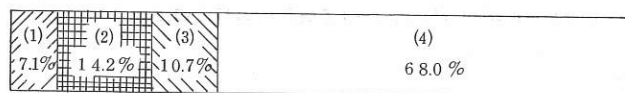
このようにしてみると、中学生の地域活動の持つ教育的意義や中学生の地域活動活性化の必要性については公民館と中学校の双方とも基本的に同様な認識の上に立っていると言える。しかし、具体的に相互の理解・協力を図っていくとする取り組みはまだ十分であるとは言えない。公民館と中学校とが相互に話し合う場や機会をもっと多く設け、相互の情報を多くとり入れ、相互の施設利用をさらに図っていくことが肝要である。これらの活動を充実することにより、双方の教育活動の計画・実施について相互理解が深められ、連携協力関係が強化され、その結果、中学生の地域活動の拡充につながっていくものと考えられる。

2 公民館事業と中学校との関係

中学生が参加できる公民館事業の企画・運営面において地区の中学校とどのようなかかわりにあるのかを探ってみる。

中学生が参加できる公民館事業と中学校の教員とのかかわりを見ると、事業の企画・運営面において教員の参加協力があるという公民館（21%）、指導者としての参加協力がある公民館（11%）というように公民館の事業に、中学校教員の協力を得ている公民館は32%あった。一方、事業について中学校教員は特にかかわっていないという公民館が68%にもなっていた。ちなみに、前年度の調査によれば、中学生を対象とする公民館事業の企画・運営に教員が協力しているという中学校が54%あり、特にかかわっていないという中学校は46%であった。

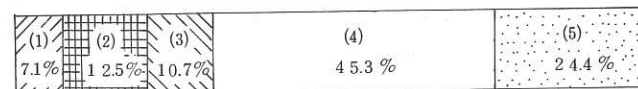
中学生が参加できる公民館事業と中学校教員のかかわりかた



- (1) 事業の計画に参画することが多い
- (2) 事業の運営に協力することが多い
- (3) 指導者として協力することが多い
- (4) 特にかかわっていない

次に、中学生が参加できる公民館事業と中学校全体としてのかかわりを見ると、中学生の公民館事業への参加や地域活動を推進するため、中学校で長期休業中に生徒を学校に集めない期間を設けているとか、あるいは、地域活動をする日等を設けているというような時間的配慮をしていると受けとめている公民館は30%あった。また一方では、中学校で特に時間的配慮をしているとは思わない公民館が45%、中学校の対応のしかたをつかんでおらず、分からないという公民館が24%あった。前年度の調査によると、中学生が地域で活動できるように時間的配慮をしている中学校が56%、特に配慮していないという中学校が44%あった。今回の調査で公民館から中学校への要望として、公民館事業への中学生の参加を促進する方策をもっととってほしいというものが多く出されていることも考え合わせると、さらに中学生が活動に参加しやすいような時間的配慮を講じるように中学校へ働きかけていくことも大切である。

公民館からみた中学生の地域活動に対する中学校の時間的配慮

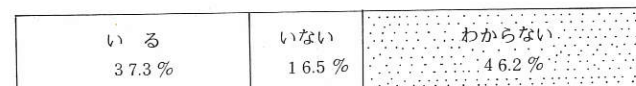


- (1) 日曜日等に部活動をしないようにしていると思う
- (2) 長期休業中に生徒を学校に集めない期間を設けていると思う
- (3) 「地域活動の日」等地域で活動する日や期間を設けていると思う
- (4) 特に配慮しているとは思わない
- (5) わからない

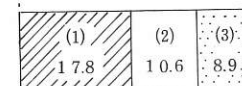
また、中学生の地域活動の推進に当たって中学生の地域ごとの組織があればそれを活用するのが望ましいと考えられるので、中学生の地域ごとの校外組織がつくられているのかきいてみた。中学校の生徒組織の中で地域ごとの校外組織がつくられているという公民館は37%あったが、その組織の有無の分からない公民館が46%あった。前年度の調査によると94%の中学校が生徒の地域における生活の指導や生徒の地域活動推進のために地域ごとの校外組織をつくっているという事実があるが、このことに対する公民館の理解はまだ十分であるとは言えない。なお、校外組織が地域ごとにつくられているという公民館のうち組織が実際に地域で活動をしているとおさえている公民館は18%であった。

中学生の校外組織に対する公民館の今後のかかわりについての考えで、公民館事業実施の時にその組織を活用したいという現実的な考え方をする公民館（51%）、地域の自主的青少年団体育成を志向したいという公民館（33%）、さらに、特に考えていないという公民館（16%）とに分かれたが、それぞれその地域における中学生や中学生の地域活動、公民館事業等の実態を踏まえての考えであろうと思われる。

地区の中学校に小地域ごとの生徒の組織（校外地区班など）がつくられていると思うか



その校外組織の地域での活動



- (1) 活動している
- (2) 活動していない
- (3) わからない

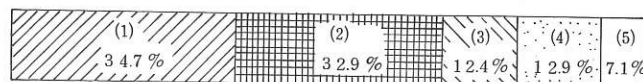
中学校に生徒の校外組織があると想定した場合の公民館の考え



- (1) 中学生の参加できる事業を実施する時に活用したい
- (2) 中学校と連携をはかって地域における自主的青少年団体として育成していきたい
- (3) 学校で組織された集団なので公民館としては特に考えていない

公民館と中学校との関係については、公民館事業への中学校教員の参加協力や生徒の地域活動に対する中学校の時間的配慮は十分でないとする公民館が多く、中学校に生徒の校外組織のあることを知らない公民館も多い。このことから公民館と中学校とのかかわりあいは好ましい状況にあるとはいえない。しかし、生徒の校外組織については今後公民館活動の中で積極的に活用していきたいとする公民館も多く、注目に値する。

中学生が参加できる公民館事業を実施する場合に中学校に最も要望したいこと



- (1) 生徒に事業への参加をすすめてほしい
- (2) 生徒が参加しやすいように時間等の配慮をしてほしい
- (3) 事業の企画に教員が参画してほしい
- (4) 事業の運営に教員が参加協力してほしい
- (5) 特に要望はない

公民館事業に参加するように、あるいは、参加しやすいように事業への参加促進策を講じてほしいとするものが68%と多く、事業の企画・運営等への教員の参加協力を望んでいるのが25%であった。

3 公民館と中学校の相互理解の必要性

これまでに中学生の地域活動活性化にかかわって、公民館と中学校との結びつきや公民館事業と中学校との関係について調査の分析と考察を行ってきた。ここでは、その中から中学校と定期的な話し合いの機会を設けている公民館とそうでない公民館を取りあげ、比較してみた。

中学校と定期的な話し合いの機会を設けている公民館が示している特徴は次の通りである。

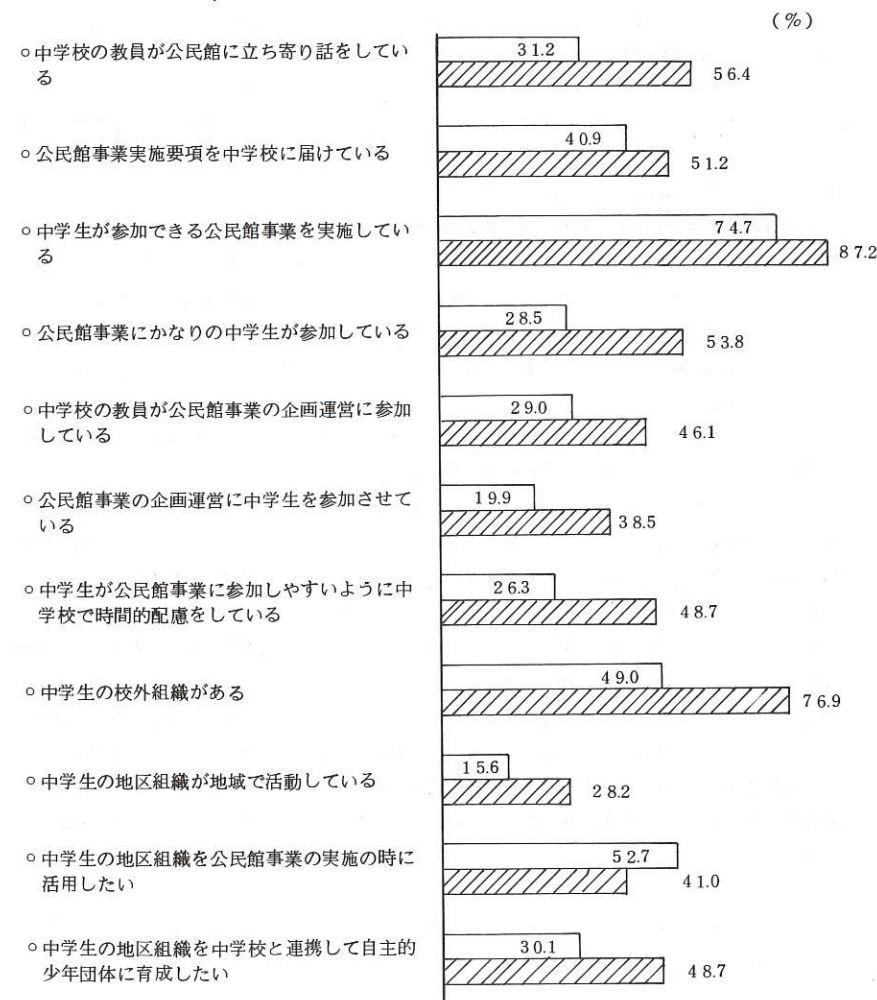
- (1) 中学校の教員が公民館に立ち寄り話をしているところが多い。
- (2) 中学校の教員が公民館事業の企画・運営に参加協力しているところが多い。
- (3) 中学生が公民館事業に参加しやすいように中学校で時間的配慮をしていると判断しているところが多い。
- (4) 中学校が中学生の校外組織をつくっていることを知っているところが多い。
- (5) 中学校と連携して地域の自主的青少年団体への育成を志向しているところが多い。
- (6) 公民館事業の企画・運営に中学生を参加させているところが多い。
- (7) 中学生の参加できる公民館事業にかなりの中学生が参加しているところが多い。

以上の項目を見ると、中学生の地域活動の活性化を図る上での具体的な取り組みのいくつかが示され

ていると考えられる。中学校と定期的に話し合いの機会を設けて、事業の企画・運営に当たっていけば、相互の連携がなされ、中学生の地域活動の拡充がなされていくと考えられる。事実、話し合いの機会の多い公民館の場合、中学生の地域活動の推進に対し積極的な取り組みをしており、一方、話し合いの機会の少ない公民館の場合は相対的にその取り組みが弱い傾向を示していると言える。

中学校と定期的な話し合いのある公民館と中学校と定期的な話し合いのない公民館との比較

話し合いのある公民館  話し合いのない公民館 
数値は、当該項目において話し合いのある(ない)公民館の占める比率を示す。



第3章 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

— 調査結果のまとめと今後の課題 —

第1節 調査結果のまとめ

今回の調査結果から次のようなことがいえる。

- ① ほとんどの公民館では、中学生が地域で活動することは人間形成上役立つものであり、今後一層活動の場や機会を拡充しなければならないと考えていた。そして、拡充の手だてとしては、地域の人々や青少年団体等に働きかけたり、学校教育関係者と連携して取り組んでいくという考えが多かった。しかし、拡充の必要性を感じていながらも、今のところ具体的に検討していないという公民館が5分の1もあった。
- ② 中学生の地域活動について、中学校や地域の人々が関心をもっていていると考えている公民館は6割弱であった。しかし、活動の主体者である中学生が地域活動に関心をもっていていると考えている公民館は全体の半数にも満たなかった。
- ③ 昭和58年度以降中学生が参加できる事業を実施したことのある公民館は全体の4分の3をこえていた。しかし、これらの事業に対する中学生の参加状況をみると必ずしも良いとはいえない状況であった。逆に、中学生が参加できる事業を実施していない公民館は実施しなかった理由として、中学生の生活実態から判断して事業を計画することが無理だと考えていた。
- ④ 中学生の地域活動の必要性について、地域の人々に対する広報活動を実施している公民館は全体の半数にも満たなかった。
- ⑤ しかしながら、子ども会育成会とのかかわりでいえば、会の運営を効果的にすすめるための資料を提供するなどの活動をしている公民館が7割をこえていた。
- ⑥ 公民館と中学校とのかかわりについては、定期的な話し合いの機会をもっているという公民館は全体の5分の1にすぎなかった。公民館事業に地区内の中学校教師がかかわっているとする公民館は3分の1であった。また、中学校で生徒が地域で活動できるように時間等の配慮をしているとは思わないと考えている公民館が半数近くもあり、中学校が組織している校外の生徒組織についてもあるのかわからないとする公民館が半数近く占めていた。しかし、かりに校外の生徒組織があるとした場合、公民館が今後どのようにかかわっていくかということについては、公民館事業を実施する時に活用していきたいと考える公民館が5割もあるが、学校教育と連携しながら地域における自主的な青少年団体として育成していきたいと答えた公民館は全体の3分の1にすぎなかった。
- ⑦ 公民館事業の計画・実施にあたって中学校に最も要望したいこととして、事業の計画・運営に教師の参加協力を求める公民館は4分の1であり、どちらかといえば、生徒が事業に参加するようにすすめてもらったり、参加しやすいように時間等の配慮を求める公民館が多かった。

以上のことは、調査結果を簡潔にまとめたものである。中学生の地域活動を活性化するためには活動の場や機会の拡充が重要であるということは、これまでの調査で中学校、公民館に共通する考えである

ことが明らかにされた。そこで、活動の場や機会の一つと考えられる公民館事業に着目し、中学生が参加できる事業を昭和58年以降実施したことのある公民館（これを「実施公民館」とする）と実施していなかった公民館（これを「非実施公民館」とする）との比較を通じて、中学生の地域活動を促進し、または阻害する要因をさぐり出していきたい。

中学生の地域における活動に関して、実施公民館と非実施公民館との間に大きな相違がみられた。

実施公民館に多くみられる特徴は次のとおりである。

1. 公民館の種類では、地区公民館、事業費規模別では、100万円以上の事業費を持つ公民館に多い。
2. 中学生が地域活動に関心を持っていると考えている公民館に多い。
3. 中学生の地域活動を拡充しようとする手だてを検討している公民館に多い。
4. 中学生の地域活動の必要性について、公民館報や各種の主催事業を通して地域の人々に啓発活動している公民館に多い。
5. 学校と定期的に話し合う機会をもつ公民館に多い。
6. 公民館事業に教師が運営等にかかわっている公民館に多い。
7. 中学校が生徒の地域活動について何らかの配慮をしていると判断している公民館に多い。
8. 中学生の参加できる事業を実施する場合、中学校に最も要望したいこととして、生徒が参加しやすいように時間等の配慮を求める公民館に多い。
9. 地域内で高校生ボランティアが活動していると考えている公民館に多い。

非実施公民館にみられる特徴的な点としては、

1. 中央公民館に多い。
2. 地区公民館の中では、年間事業費が小規模の公民館に多い。
3. 中学生が地域活動に関心を持っていないと考えている公民館に多い。
4. 中学生の地域活動を拡充する必要性をもっていないが、具体的な拡充の手だてを検討していない公民館に多い。
5. 中学生の地域活動の必要性について、地域の人々に対する啓発活動を実施していない公民館に多い。
6. 中学校と定期的に話し合う機会をもっていない公民館に多い。
7. 教師が公民館事業にかかわっていないとする公民館に多い。
8. 中学校が生徒の地域活動についてどのように配慮しているかわからない公民館に多い。
9. 地域内に高校生ボランティアがいるかわからない公民館に多い。

この結果を検討してみると、中学生の地域活動を促進したり阻害したりする要因として、①公民館の年間事業費の多少、②地域活動拡充への計画の有無、③中学校との結びつきの強弱、④地域に高校生ボランティア活動の有無、などが考えられる。

中学生の地域活動に関する公民館の考え

(%)

		全 体	実 施	非実施
a あなたの公民館は次のうちどれに該当しますか	1. 中央公民館 2. 地区公民館	20.4 79.6	18.0 (82.0)	(28.8) 71.2
b あなたの公民館の年間総事業費はいくらですか	1. 20万円未満 2. 20～40万円未満 3. 40～60万円未満 4. 60～80万円未満 5. 80～100万円未満 6. 100万円以上	4.9 8.9 13.3 8.9 11.6 52.4	2.3 8.1 12.1 9.8 12.8 (54.9)	(13.5) 11.5 17.3 5.8 7.7 44.2
c 公民館からみて、地区の中学校は生徒の地域での活動に関心を持っていると思いますか	1. 関心を持っていると思う 2. 関心を持っていないと思う 3. わからない	57.3 39.6 3.1	59.5 38.1 2.4	50.0 44.2 5.8
d 地域の人々は、中学生の地域での活動に関心を持っていると思いますか	1. 関心を持っていると思う 2. 関心を持っていないと思う 3. わからない	59.1 38.7 2.2	60.7 37.6 1.7	53.8 42.3 3.9
e 地域に住んでいる中学生は地域の行事や公民館活動に参加することについて関心を持っていると思いますか	1. 関心を持っていると思う 2. 関心を持っていないと思う 3. わからない	49.8 48.9 1.3	(54.3) 44.5 1.2	34.6 (63.5) 1.9
f 中学生が地域で活動することについて、公民館ではどのように考えていますか	1. 中学生の人間形成上役立つと考えている 2. 中学生の人間形成上格別役立つとは考えていない 3. どちらともいえない	92.9 1.8 5.3	94.2 1.2 4.6	88.5 3.8 7.7
g 公民館として今後活動の場や機会を拡充しなければならないと思いますか	1. 拡充しなければならないと思う 2. 特に拡充する必要はないと思う	87.6 12.4	87.9 12.1	86.5 13.5
h あなたの公民館では、拡充の手だてとしてどのようなことが考えられますか	1. 公民館事業の中に積極的に取り入れていく 2. 地域の人々や青少年団体等に働きかけていく 3. 学校教育関係者と連携して取り組んでいく 4. 今のところ具体的に検討していない	6.1 38.1 34.5 21.3	7.2 38.8 36.2 17.8	2.2 35.6 28.9 (33.3)
i 中学生が地域で活動することの必要性について、地域の人々に知らせたことがありますか	1. 公民館報等を通して知らせたことがある 2. 公民館報等を通して知らせたことがない 1. 他の公民館事業を通して知らせたことがある 2. 他の公民館事業を通して知らせたことがない	29.3 70.7 47.6 52.4	(37.0) 63.0 (54.3) 45.7	3.8 (96.2) 26.9 (73.1)
j 子ども会育成会に対して資料を提供したり、相談に応じたりしたことがありますか	1. ある 2. ない	73.3 26.7	74.6 25.4	69.2 30.8

(%)

		全 体	実 施	非実施
k 子ども会育成会の役員研修を実施したことがありますか	1. ある 2. ない	46.2 53.8	48.0 52.0	40.4 59.6
l あなたの公民館では、地区の中学校と定期的に話し合う機会が設けられていますか	1. 話し合う機会が設けられている 2. 話し合う機会が設けられていない	17.3 82.7	(19.7) 80.3	9.6 (90.4)
m 公民館に地区の中学校の行事計画等が送られてきますか	1. 送られてくる 2. 送られてこない	50.7 49.3	(53.2) 46.8	42.3 (57.7)
n 中学生が参加できる公民館事業に、地区の中学校の教員がどのようにかかわっていますか	1. 事業の計画に参画することが多い 2. 事業の運営に協力することが多い 3. 計画・運営等のすべてにわたってかかわることが多い 4. 指導者として協力することが多い 5. 特にかかわっていない	6.2 12.9 2.2 10.7 68.0	8.1 (15.6) 2.9 11.6 61.8	- 3.8 - 9.7 (86.5)
o 地区の中学校では、生徒が地域で活動できるように時間や時期について、どのような配慮をしていると思いますか	1. 日曜日等に部活動をしないようにしていると思う 2. 長期休業中に学校に集めない期間を設けていると思う 3. 地域で活動する日や期間を設けていると思う 4. 特に配慮しているとは思わない 5. わからない	7.1 12.5 10.7 45.3 24.4	9.2 14.5 11.0 46.2 19.1	- 5.8 9.6 42.3 (42.3)
p 中学生が参加できる事業を実施する場合、中学校に最も要望したいことは次のうちどれですか	1. 生徒に事業への参加をすすめてほしい 2. 生徒が参加しやすいように時間等の配慮をしてほしい 3. 事業の企画に教師が参画してほしい 4. 事業の運営に教師が参加協力してほしい 5. 特に要望はない	34.7 32.9 12.4 12.9 7.1	34.7 (35.3) 11.0 12.1 6.9	34.6 25.0 17.3 17.3 5.8
q 公民館として、今後中学校にある校外の生徒組織とどのようなかわりをもっていきたいと思いますか	1. 中学生の参加できる事業を実施する時に活用したい 2. 中学校と連携を図って、地域における自主的な青少年団体として育成していきたい 3. 学校の組織なので、特に考えていない	50.7 33.3 16.0	50.3 34.1 15.6	51.9 30.8 17.3
r 公民館のある地域にボランティア活動をしている高校生がいますか	1. ボランティア活動をしている高校生がいる 2. ボランティア活動をしている高校生はいない 3. わからない	52.4 21.8 25.8	(57.2) 21.4 21.4	36.5 23.1 (40.4)

(注) 表中の○印は当該選択肢の実施公民館の回答比率と非実施公民館の回答比率が10%以上の差があることを示している。

第2節 中学生の地域活動を活性化するための公民館の役割

中学生の地域活動について、公民館は人間形成上必要なものと考えており、今後はさらに拡充に努めていく姿勢をもっていった。中学生が地域で活動することは、彼ら自身の人間形成にとって教育的意味をもつだけでなく、郷土愛や地域連帯感の育成にとっても重要であると考えられる。しかし、現実には、中学生の地域活動は活発に展開されているとはいいがたい状況にあることも事実である。このような状況にあって、地域社会で社会教育活動を推進する機能をもつ公民館が、中学生の地域活動をより活性化するためにどのような役割をもつかということについて、調査結果の分析をもとにして考察する。

1. 公民館は、中学生が地域で活動できうような環境を醸成することに努力する必要があること。そのためには、公民館が地域の人々や青少年団体・学校教育関係者に対してどのような働きかけをしたらよいのか、その具体的な方策を真剣に検討しなければならないと思われる。
2. 公民館が、地域の人々に対する学習や活動の場や機会を提供する機能にとどまらず、たとえば、中学生の地域活動について関心を高め、理解を深めるなどの広報活動機能も強化していく必要がある。また、青少年育成にかかわる子ども会育成会などの社会教育関係団体に対する育成援助活動も大事にしていかなければならない。ことばをかえていえば、事業を開催することの重要性とともに活動を奨励することの重要性にも目を向ける必要があろう。
3. 特に、中学校との関連でいえば、中学校も公民館も中学生の地域活動の必要性を感じている現状を認識し、中学校との交流を活発にするなど共通理解を図る活動をより一層充実させていく必要がある。このことは、中学生の地域活動を活性化するための共通の手だてを生み出すことにも関連していくと考えられる。
4. 公民館は、中学生が地域で活動に参加できる事業を豊富に準備していく必要がある。事業の企画運営にあたっては、中学校・地域の人々・中学生など関係者の意向が十分に反映され、事業が効果的に展開されるためにはどのようにしたらよいのかを研究しなければならない。公民館の事業を契機にして、中学生が地域で自主的な活動を実践していくようになれば、活性化の道につながっていくと思われる。その際に、校外の生徒組織が有効に位置づけられる方策を検討する必要がある。
5. 中学生の先輩にあたる高校生が地域でボランティア活動をしている地区の公民館では、他の公民館に比して中学生の参加できる事業を実施しており、また、中学生の参加状況もよかった。このことからいっても、中学生の地域活動を活性化するためには、公民館は今迄以上に地域に根ざした高校生のボランティア・グループの育成に努力していく必要がある。

ともかく、中学生が地域で活動することはどのような意義があるのかを議論している時期から、関係者がそれぞれの機能を充実するとともに相互の連携を強化し、具体的な活動の実践をめざす時期にきていると思われる。数多くの実践を積み重ね、その実践の分析を通してさらに望ましい活動のあり方を検討していかなければならない。そのような意味においても、公民館に対する期待は大きいといえよう。このような期待にこたえていくためにも、公民館の職員体制や財政の確立を図られることはみのがせない課題の一つとなる。

今後の研究課題としては、これまでの教育機関（中学校・公民館）の段階での研究を基礎としながら、教育委員会での指導行政をも含めて、中学生の地域活動を活性化するために学校教育と社会教育とがどのように連携していくことが望ましいのかそのあり方を明らかにしていく必要がある。また、各地で実践されている活動を実証的に研究することや、地域活動の主体者である中学生に視点を当てた研究も必要であろう。

発行所 山形県教育センター
天童市大字山元字犬倉津 2,515
TEL (0236) 54-2155~9